

学長の挨拶

富山県立大学 学長
小笠原 司



4 月から富山県立大学学長を務めることとなりました小笠原 司です。

研究協力会の高木会長をはじめ、役員そして会員の皆様には、本学の教育や研究に多くのご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学は、平成 2 年に日本海側初の工学系公立大学として開学して以来、地域社会との密接な連携を重視し、産学官医の多様な分野との協働を通じて、教育・研究・社会貢献の三位一体の活動を展開してまいりました。特に、共同研究や技術支援を通じた産業界との連携、自治体や医療機関との協力による地域課題の解決、さらには公開講座や地域交流イベントの開催など、地域に根ざした大学としての使命を果たしてまいりました。

平成 27 年 4 月には、公立大学法人化という大きな転機を迎え、これを契機に教育体制の強化と学問領域の拡充を図りました。医薬品工学科の開設をはじめ、既存学科の再編・拡充による入学定員の増加を実現し、より

多様な学びの場を提供しています。さらに、平成 31 年 4 月には看護学部を開設し、医療人材の育成にも力を注いでおります。

令和 4 年 4 月には、急速に進展するデジタル社会に対応すべく「DX 教育研究センター」を設置し、デジタル技術を活用した教育・研究の推進に取り組んでおります。そして令和 5 年 4 月には、看護学部のさらなる発展を目指して大学院看護学研究科を開設し、高度な専門知識と実践力を備えた看護専門職の育成を進めております。

令和 6 年 4 月には情報工学部を新たに開設し、情報技術分野における教育・研究体制を一層強化しました。さらに令和 8 年には、情報工学系の大学院の新設を予定しております。

このように、本学は、「富山県の発展をめざした県民の大学」、「未来を志向した大学」、「特色ある教育をめざした大学」という建学の理念のもと、地域社会とともに歩みながら、時代の変化に柔軟に対応し、教育・研究の質の向上と施設・設備の充実を図り、さらなる発展と飛躍を目指しております。

今後も、産業界のニーズを踏まえた学科の拡充や新設、県内就職定着の促進、国際交流の推進など、「地域の知の拠点」としてより魅力ある大学となるよう、教育、研究、社会貢献活動にこれまで以上に積極的に取り組んでまいります。

今後とも県立大学に対するご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ◆学長の挨拶P1
- ◆令和 7 年度富山県立大学研究協力会
総会開催P2～3
- ◆令和 7 年度研究協力会奨励研究採択結果P3

- ◆共同研究事例紹介P4
- ◆会員紹介P5
- ◆シーズ紹介P6～7
- ◆大学からのお知らせP8

令和7年度 富山県立大学研究協力会総会開催

令和7年5月20日(火)、ポルファートとやまにおいて、令和7年度富山県立大学研究協力会総会が来賓・会員・教員あわせて約140名の出席のもと、開催されました。

高木章裕研究協力会会長(株式会社タカギセイコー代表取締役社長)は、「富山県立大学研究協力会は、平成16年に発足し、これまで大学の研究活動や企業の人材育成に対する支援などの活動を続けてまいりました。そしてこの春で、協力会発足から22年目の節目を迎えることとなりました。これも日頃から、皆様の本会へのご理解とご支援の賜物であり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。県立大学におかれましては、令和6年度に情報工学部が開設され、来たる令和8年度には情報工学系大学院が新設される予定であり地域産業との連携や価値創造につながる研究力向上の取組みを強力に推進されて

おられます。研究協力会としても、県立大学が地方創生の一翼を担い、地域の活性化や地域医療の充実に寄与できるよう、さらに応援していければと思います。皆様におかれましても、より一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶されました。

また総会では、令和6年度事業報告及び収支決算、令和7年度事業計画及び収支予算が審議、承認されました。

▼高木会長挨拶の様子



▲山本理事長挨拶の様子

総会議事

- ・令和6年度事業報告及び収支決算(案)について
- ・令和7年度事業計画及び収支予算(案)について

総会報告事項

- ・令和7・8年度リエゾンサポーターリーダーについて
- 役員一覧については、下記のとおりです。

【令和7年度 富山県立大学研究協力会役員】

役 職	氏 名	所 属	役 職
会 長	高木 章裕	株式会社タカギセイコー	代表取締役社長
副会長	田中英一郎	田中精密工業株式会社	代表取締役社長執行役員
副会長	多田 守男	北陸電気工業株式会社	取締役会長
副会長	中井 環	リードケミカル株式会社	代表取締役社長
理 事	石崎 大善	株式会社アイザック	代表取締役社長
理 事	高橋 秀彰	アイシン軽金属株式会社	執行幹部
理 事	谷口庄一郎	株式会社インテック	専務執行役員
理 事	大橋 聡司	大高建設株式会社	代表取締役社長
理 事	三吉 勇人	協和ファーマケミカル株式会社	代表取締役社長
理 事	廣川 芳通	コーセル株式会社	執行役員 開発統括
理 事	杉野 岳	株式会社スギノマシン	代表取締役副社長
理 事	水口 勝史	立山科学株式会社	代表取締役社長
理 事	津根 良孝	津根精機株式会社	代表取締役会長
理 事	中井 淳	東亜薬品株式会社	代表取締役社長
理 事	村上美也子	公益社団法人富山県医師会	会長
理 事	岡本 里美	公益社団法人富山県看護協会	会長
理 事	米田 篤史	株式会社ニッポンジーン	代表取締役社長
理 事	吉田 直純	株式会社不二越	技術開発本部 材料開発担当 部長
理 事	清都 太郎	富士フイルム富山化学株式会社	取締役執行役員 富山第二工場長兼 富山研究開発センター長
理 事	多賀 淳二	北電情報システムサービス株式会社	代表取締役社長
理 事	福村 章	北陸電力株式会社	常務執行役員 原子力本部長
理 事	小林 聖子	YKK株式会社 黒部事業所	副社長 黒部事業所長
監 事	片岡 幹夫	射水商工会議所	専務理事
監 事	水上 優	富山県経営管理部	学術振興課長

※企業名五十音順

(令和7年5月20日総会開催時点)

講演会

総会後は、富山県立大学小笠原司学長に、『ロボットの知能化とシステム化－ロボティクス研究を振り返る－』と題してご講演いただきました。



▲小笠原学長講演の様子

発表会

今年は講演会後に本学学生によるシリコンバレー・アントレプレナー研修発表会を行いました。



▲発表会会場の様子

交流会



▲交流会会場の様子



▲新田知事挨拶の様子

新田八朗富山県知事が来賓として出席され、乾杯のご挨拶とともに、交流会がスタートしました。新型コロナウイルス感染拡大以前と同様の立食形式での開催となり、多くの会員企業、行政、金融機関等のみなさまにご出席いただき、県立大学教員と交流を楽しむ様子が見られました。

さらなる発展のために

富山県立大学研究協力は、発足から 21 年を迎えました。

また、会員数は約 230 社を数え、大学が支援する組織としては北陸最大級です。

協力会では、産学連携コーディネート活動やテーマ別研究会に対する活動、地域連携センター活動に対する支援を行うとともに、県立大学教員等との交流・連携、電子メール等を利用した情報発信を行っています。

本協力会のさらなる発展のためには、会員並びに関係機関の皆様の積極的なご参加・ご協力が不可欠です。今後とも引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



令和7年度 研究協力会奨励研究が採択されました！

令和7年7月15日(火)、第1回リエゾンサポーターリーダー会議を県立大学射水キャンパスで開催し、全6分野の審査を行いました。リエゾンサポーターリーダーによる審査の結果、令和7年度研究協力会奨励研究が12件採択されました。採択結果は以下のとおりです。また、これらの研究成果発表は、来年度のリエゾンサポーター交流会で行う予定です。

バイオ・ライフサイエンス分野

- ◆未成熟リボソームを標的とした耐性因子の構造解析と創薬基盤の構築 (生物工学科/講師 高田 啓)
- ◆リグニンによる腸内細菌叢の変動を介した抗メタボリックシンドローム作用の検討 (医薬品工学科/准教授 古澤 之裕)
- ◆膵臓がん治療を目指した標的型核酸ナノドラッグデリバリーシステムの開発 (生物工学科/講師 牧野 祥嗣)
- ◆ベンジルシアネートの 3,3- 転位反応を活用した新規オキシインドールの合成法の開発 (生物工学科/助教 的羽 泰世)

情報通信分野

- ◆高齢者見守りシステムにおける離床・転倒検出の性能向上 (知能ロボット工学科/講師 孔 祥博)
- ◆マイクログリッドにおける EV 充放電を用いた地域間送配電の最適化モデルとマルチエージェントシミュレーションによる社会効用の検証 (電気電子工学科/准教授 小島 千昭)

環境・エネルギー分野

- ◆能登半島地震をふまえた陸域・海域運動を考慮した富山津波の新想定とデジタルツインを通じた地区防災への展開 (環境・社会基盤工学科/教授 呉 修一)

ナノテクノロジー・材料分野

- ◆空中に浮遊させた液滴と高温の微小金属粒子衝突による熱処理・乾燥プロセス技術の創出に関する基礎研究 (機械システム工学科/准教授 大嶋 元啓)

ものづくり分野

- ◆スクリーポンプ型機能性ブレーキを用いたパッシブ速度制御 (知能ロボット工学科/教授 小柳 健一)
- ◆手技における暗黙知習得過程の可視化 (知能ロボット工学科/講師 松本 賢太)
- ◆産学連携ラボにおけるロボット位置特定による安全性向上 (知能ロボット工学科/助教 アハメド アルマスリ)

看工連携分野

- ◆身体活動の視点に基づく分娩助産技術教育プログラムの開発に向けた分娩の自然現象を再現するための模擬装置の改良 (看護学科/講師 西村 香織)

共同研究
事例紹介DAITO ダイト
医薬品原薬から製剤まで情報工学部 情報システム工学科
大倉 裕貴 講師

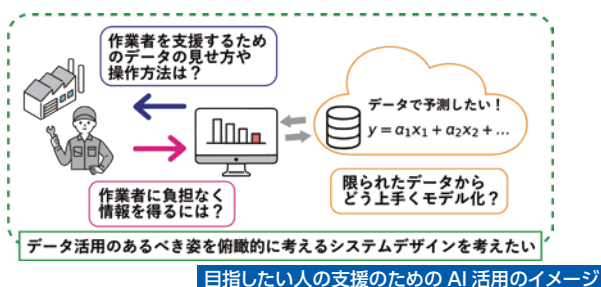
AI による医薬品の品質管理作業の支援に関する共同研究

● 共同研究の目的・内容

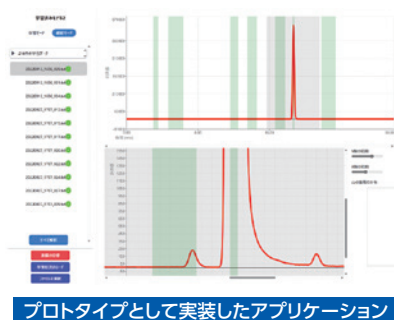
医薬品の品質管理工程において、試験データ（クロマトグラム）の波形確認は、製品の品質を保証する上で極めて重要です。しかし、従来この確認作業は、熟練した担当者の経験や技術に頼る部分が多く、膨大なデータのチェックは大きな負担となっていました。また、ごく稀に発生する「通常とは少し違う」波形を見逃すリスクや、判断の属人化も課題でした。

本共同研究は、この課題を解決するため、AI 技術を活用して試験データの異常を自動で検知し、担当者の判断を支援するシステムを開発することを目的としています。これにより、品質管理業務の DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、高い検査精度を保ったまま作業負担の軽減することを目指します。

研究開発では、まず波形データから元データの特徴が損なわれないよう工夫しながらノイズを除去し、AI が判断の根拠とする波形の「ピーク（山）」の位置や面積といった特徴量を正確に抽出するアルゴリズムを設計しました。その上で、AI による異常検知アルゴリズムを開発しました。正常データのパターンから外れたものを検出する「教師なし学習」と、過去の異常データから傾向を学ぶ「教師あり学習」を試験



データの性質によって切り替えることで、検知精度を高めるアプローチをとっています。一連の流れを実行し、得られた検知結果を、ユーザーが見やすいよう可視化



するアプリケーションのプロトタイプの実装も行いました。

この研究は、富山県立大学の大倉研究室が持つシステム数理デザインや AI・機械学習の知見と、ダイト株式会社が持つ医薬品製造現場の豊富なデータおよび専門的知見を融合させる、まさに産学連携の強みを活かした取り組みです。大学側がアルゴリズムとアプリケーションのプロトタイプ開発を、企業側がデータ提供と実用性の評価を担当し、密に連携しながら開発を進めてきました。

● 今後の展望

今後は、これまで特定の薬剤で検証してきた技術を、より多様な薬剤データにも対応できるよう、アルゴリズムの汎用性を高めていきます。また、実際にシステムを利用する現場の担当者からフィードバックを受け、表示方法や操作性を改善し、誰もが直感的に「変かも」という気づきを得られるようなユーザーインターフェースを目指します。最終的には本プロトタイプを現場へ導入し、品質管理の効率化に貢献できればと思っています。

共同研究者の
コメントダイトの
毛利 雅彦 です！

当社は、高品質な医薬品を安定供給することによって、人々の健やかな生活に貢献することを目指しています。

医薬品業界では、厳格な品質管理と規制遵守が不可欠ですが、労働人口の減少や品質管理業務の増加といった課題にも直面しています。

そのため、今回の共同研究で開発した解析アプリを活用することで、不純物の検出能力向上や人的ミスの防止、省人化の実現など、品質管理業務の効率化を推進してまいります。

本学教員の
コメント

大倉 裕貴 です！

製薬現場の DX 化という挑戦的な課題に、ダイト様と共に取り組めることを嬉しく思います。私の専門はシステム数理モデリングや制御工学ですが、その知見を活かし、複雑なデータから本質を捉え、人が使いやすい形で支援するシステムの設計を目指したいと考えています。単なる自動化でなく、現場で働く方々の負担を減らし、熟練者の「気づき」を情報化し、支援に活かすことで、品質管理の未来に貢献できれば幸いです。

会員紹介



SASAYA

笹谷工業株式会社



笹谷工業株式会社

本社工場 〒939-1346 富山県砺波市狐島 241-2
TEL 0763-32-6600
FAX 0763-32-6602

小杉事業所 〒939-0341 富山県射水市三ヶ 2602
TEL 0766-56-1411

HP (URL) <https://sasayakk.co.jp>
創業 大正 8 年 (1919 年) 10 月 1 日
事業内容 鋳鉄鋳物製品の設計、製造、機械加工、販売

鋳物とともに歩み続けて 100 年 持続可能な社会と共生 これからの未来を創造する

笹谷工業株式会社は 1919 年 (大正 8 年) 富山県射水郡新湊町 (現: 射水市) で創業し 100 年以上にわたり日本の産業を鋳物技術で支えてまいりました。

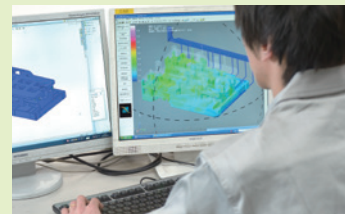
長年にわたり蓄積した技術・設備・人材を結集し、中・大物鋳鉄鋳物の設計から模型製作・材料設計・鋳造・機械加工、そして最終検査までを自社で行う一貫生産体制を確立しています。また、製品用途に合わせた特性を持つ材料設計や他材質品の鋳鉄鋳物への変更による原価低減のご提案等、試作品や一品物の多品種少量生産を売りとして、さまざまなニーズにお応えしております。

近年では、DX の推進や情報セキュリティ体制の強化に加え、カーボンニュートラル実現に向けた CO₂ 排出量削減にも積極的に取り組んでおります。

鋳物づくりは古代メソポタミアに端を発し、6,000 年を超える歴史を持つ

ものづくりの源流です。

私たちはこの伝統を受け継ぎながら、時代の変化にも果敢に挑み、次の 100 年、そしてその先の未来まで社会の基盤を鋳物で支え続けてまいります。



ニッポン・ジーン

株式会社ニッポンジーン

本社 〒101-0054 東京都千代田区
神田錦町一丁目 5 番地 金剛錦町ビル

主要拠点 〒930-0982 富山県富山市荒川一丁目 1 番 25 号
TEL 076-451-6548
FAX 076-443-9120

HP (URL) <https://nippongene.com/>
設立・創業 1982 年 1 月 25 日
事業内容 ■遺伝子工学研究用試薬、体外診断用医薬品、検査診断薬の開発及び製造
■バイオテクノロジーに関する新規技術開発及び受託研究

『バイオでものづくり』

キーワードはヒト・動物・植物・地球 (環境) の『健康』

株式会社ニッポンジーンは、バイオテクノロジーを活用した製品開発型企業です。得意とする「遺伝子」と「抗原抗体反応」の技術で、バイオ基礎研究用試薬 (核酸抽出/精製、PCR 関連試薬、LAMP 関連試薬、ゲノム編集、公定法試薬等)、体外診断用医薬品 (ヒト用迅速診断 [感染症、疾病マーカー、妊娠・排卵]、動物用感染症診断)、検査診断薬 (ヒト・動物・植物・食品・環境用等) の開発・製造を行っています。



コロナ禍によって、PCR 検査、抗原検査という言葉が一般の方々にも広く普及し、検査診断薬の必

要性に大きな注目が集まっています。当社は「核酸増幅法」「イムノクロマト法」「エライザ法」に対応でき、高感度検査から POCT まで、使用する場面に応じた検査診断薬の開発が可能です。さらに、酵素や抗体などのキーマテリアルから最終製品まで一貫した開発・製造が可能であり、これは当社最大の強みです。

創業以来の研究開発活動によって培われた幅広い技術力で、これからも研究用試薬で基礎研究を支援するとともに、体外診断用医薬品、検査診断薬を通じて社会に貢献して参ります。



シーズ紹介

新たに、富山県立大学に着任された先生方をご紹介します（令和7年4月1日現在）。
ご相談などございましたら、お気軽にお問い合わせください。



工学部・教養教育センター 講師

瀬戸 麗 SETO Rei

研究分野 教育社会学、異文化間教育学

メッセージ 日本は近年、比較的均質な社会から、移民人口の多い社会へと移行しつつあり、多文化共生のあり方を模索することが重要な課題です。私は、外国につながる子どもの教育支援について、政策、学校、地域の日本語教室における実践を対象に、諸外国の事例と比較しながら、歴史的および社会学的観点から研究を進めています。

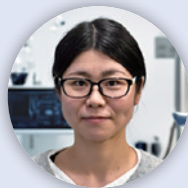


工学部・電気電子工学科 准教授

田縁 俊光 TAEN Toshihiro

研究分野 固体物理、電子物性、量子輸送、低温物理、薄膜、微小結晶デバイス、強磁場物性、超伝導

メッセージ 微小な薄膜結晶のデバイスを作製し、低温・強磁場環境下で測定することによって量子輸送特性の評価を行い、電子物性の研究を進めています。特に代表的な積層系薄膜であるグラファイトにおいて特有の強磁場輸送現象を発見しましたが、さらに超伝導をはじめとする創発電子物性の開拓を目指しています。



工学部・環境・社会基盤工学科 准教授

藤吉 奏 FUJIYOSHI So

研究分野 微生物生態、遺伝子、大気環境、水環境

メッセージ 大気中の微生物の環境における役割や健康影響について、様々な場所でフィールドワークを実施しています。新しい微生物の探索や、遺伝子解析技術・メタゲノム解析を用いて、環境変化に対する微生物群集の変動や微生物の適応メカニズムを解明し、感染症対策や環境保全に貢献することを目指して研究を進めています。



情報工学部・データサイエンス学科 准教授

長谷川 晃 HASEGAWA Akira

研究分野 画像解析、医用画像情報学、人工知能、放射線科学

メッセージ 画像解析では、単純 X 線や CT での最適な画質と被ばく線量について研究しています。画像処理では、膨大な画像から迅速に病気を検出する人工知能（AI）を開発しています。さらに、生成 AI を使って画像診断レポートを自動作成するシステムを開発しています。また、生成 AI 技術を応用し、病気の発症予測について研究しています。



情報工学部・知能ロボット工学科 助教

杉澤 康友 SUGISAWA Yasutomo

研究分野 1D-CAE 深層学習 CAD/CAM

メッセージ 1D-CAE とよばれるシミュレーションの高速化技術に関し、深層学習に代表される AI 技術の適用について研究しています。

また、それらの技術を CAD/CAM などへ応用することで、最適形状の模索や、加工時間の短縮といった生産技術の高度化に繋げることを目指しています。



工学部・機械システム工学科 講師

上杉 晃生 UESUGI Akio

研究分野 マイクロ・ナノスケール材料物性評価、微細加工、応用デバイス開発

メッセージ シリコン等の半導体材料は、構造微細化に伴って、機械ひずみや温度、温度勾配下での材料物性が大きく変化します。これらは微細デバイスの高性能化に資するものと期待され、私の研究では、マイクロ・ナノスケールの微細構造の加工・集積と物性評価、また微小力覚センサなどの応用デバイスの開発研究に取り組んでいます。



工学部・電気電子工学科 助教

松山 実由規 MATSUYAMA Miyuki

研究分野 超高層大気物理学、電磁波工学

メッセージ 宇宙利用が盛んになっている今日、高度 100-300km の電離圏で発生する現象が我々の生活に影響を与えます。観測ロケットを用いた電離圏の電波を観測することで電離圏の現象解明を目指しています。そして、宇宙空間での電波観測技術のノウハウを地上でも生かしていきたいと考えています。



工学部・生物工学科 助教

的羽 泰世 MATOBA Taisei

研究分野 天然物化学・有機合成化学

メッセージ 天然に存在する重要な生理活性有機化合物を研究対象とし、天然物合成を基盤とする分子構築、計算化学を駆使した合成経路設計および分子設計を融合させることで、有用分子の創製とその効率的な供給法の確立を目指しています。



情報工学部・データサイエンス学科 助教

松山 裕典 MATSUYAMA Hironori

研究分野 システム神経科学、行動生物学、非線形物理学

メッセージ 生き物の「知能」の起源を知るために、小さな線虫 *C. elegans* を研究しています。生物の知覚・思考・判断・行動は、脳内の複雑な信号ダイナミクスによって生み出されています。線虫を用いた神経生物学実験とデータサイエンスの両面から脳の作動原理を理解し、その機能をコンピュータ上に再現することを目指しています。



看護学部・看護学科・基礎看護学講座 准教授

小宮山 陽子 KOMIYAMA Yoko

研究分野 看護学・看護教育学・生命倫理学・科学史

メッセージ 看護は、身体・心理・社会的側面を包含した人間理解のうえに成り立ちます。この理解を助ける為の教育実践方法、とくにアセスメント学修方法について研究しています。また、人間の生と死の弁別に関する研究にも取り組んでおり、死の決定の根拠とされる概念について科学的・思想的観点から歴史的に探究しています。



看護学部・看護学科・基礎看護学講座2 講師

大賀 由花 OHGA Yuka**研究分野** 基礎看護学、看護技術、看護倫理、コミュニケーション、緩和ケア**メッセージ** 透析療法中の方を含む高齢

の慢性腎臓病をもつ方への緩和ケアにおける看護介入（共在、ACP、回想法、芸術療法、アクティビティケア、グリーフケア、祈り等）、ケアリング、コンサルテーション、死生観・倫理観の醸成を促進する教材開発等の研究活動に取り組んでいます。コラボしていただける方を探しております。



看護学部・看護学科・地域看護学講座 講師

澤武 美穂 SAWABU Miho**研究分野** 保健師の人材育成**メッセージ** 地域保健における保健師の人

材育成について、現場に即した研究を行っています。特に、新人保健師の専門職としての自己構築プロセスや、指導保健師の役割形成及び支援者としての自己の再構築プロセスに関心をもち、現場への還元を意識した実践的な研究に取り組んでいきたいと考えています。



看護学部・看護学科・成人看護学（急性期）講座 講師

大西 陽子 ONISHI Yoko**研究分野** 集中治療、人工呼吸器装着患者、教育プログラム開発**メッセージ** 集中治療を受ける重症患者を対

象とした研究を行っています。現在は人工呼吸器装着患者に対し熟練看護師がどのような看護を提供しているのか、インタビュー調査を通して看護実践の構造の解明に取り組んでいます。今後は多職種連携の実態と課題を明らかにし、教育プログラムの作成に取り組みたいと考えています。



看護学部・看護学科・母性看護学講座 助教

茂野 由貴 SHIGENO Yuki**研究分野** ヘルスリテラシー、周産期うつ**メッセージ** 近年増加している周産期うつの

増加の一因に、情報の過多によるストレスがあります。周産期にある女性のヘルスリテラシー（健康情報を収集・理解・判断し、活用する力）を測定し、それを高めることで周産期うつの予防を目指す研究に取り組んでいます。



看護学部・看護学科・在宅看護学講座 助教

久田 智未 KYUDA Tomomi**研究分野** 温療法、脳活動、認知症高齢者、在宅看護**メッセージ** 体の一部を湯に浸ける手浴や

足浴などの温療法は、病院や在宅にて主に清潔を保つ目的で実施されます。しかし近年では、温療法が脳の活性化にも関与する可能性があることが明らかになりました。日常的に行われる看護ケアの持つ効果やその実施方法について、特に脳活動や自律神経活動に与える影響に注目し、検証しています。

研究に関する問合せ窓口

TEL: (0766) 56-0604 (産学官連携コーディネーター)

E-mail: tpu-liaison@pu-toyama.ac.jp

第30回 ダ・ヴィンチ祭 2025

子どもたちの科学への興味と関心を高めるため、平成8年より取り組んでいる「ダ・ヴィンチ祭」を8月2日（土）に開催し、約2,000名の皆様にご来場いただきました。当日はこども科学製作教室やおもしろ科学実験の実演、さらに第30回開催を記念した特別企画など、53企画を実施し、科学の魅力を体感していただきました。

参加した子どもたちからは「たくさん学べて楽しかった」「科学に興味をもった」「また来年も参加したい」など、嬉しい声も聞かれました。

今後も地域の子どもたちが何度訪れても新しい発見ができるイベントとなるよう取り組みを進めていきたいと考えております。

特別企画
「わくわく・どきどきサイエンスショー」生き物を観察しよう
～「ねいの里」出前講座も来るよ～とっても冷たい世界の
材料の不思議を体験しよう未来の夏祭り
～デジタル射的とAR金魚すくい～

大学からのお知らせ

■「富山県立大学リエゾンサポーター交流会」のご案内

リエゾンサポーター交流会は、本学教員による研究成果発表を通じて、県立大学の研究シーズに対する知識を深めていただくとともに、発表会後には交流会を開催し、教員との交流を通して、産学連携のさらなる発展を図ります。研究協力会会員の皆様方におかれましては、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

詳細については、別途ご案内いたします。



写真は令和6年度の様子（研究成果発表）

●日 時 / 令和7年11月7日(金) 13:15～18:50

●開催方法 / 富山県立大学射水キャンパス（講義棟 講義室 F101 ほか）

お問い合わせ先 富山県立大学研究協力会事務局 TEL.0766-56-0604 / FAX.0766-56-0391 E-mail: tpu-liaison@pu-toyama.ac.jp

■富山県立大学公開講座のご案内

富山県立大学では地域に密着した大学としてその教育研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の向上に資するとともに生涯教育の一助となることを目的として、公開講座を開催しています。

今年度は、教養教育センターの教員が中心となり、下記のとおり多彩な講座を開催いたしますのでご案内します。

●テ マ / 「視点を変えれば、世界が変わる
— 大学で出会う新しい学び」

●開催日時 / 令和7年10月25日(土)、
11月1日(土)・8日(土)
各日 13:30～(受付開始 13:00～)

●開催方法 / ・富山県立大学射水キャンパス(射水市黒河5180)
中講義室での対面開催
・オンライン配信(当日 Zoom)
・録画配信(後日 YouTube)



受講料
無料!

写真は昨年の様子

●講義スケジュール及び担当講師

日 時	時 間	講 義 項 目	講 師 等
10月25日(土)	13:30～13:40	開講式	富山県立大学 学 長 小笠原 司
	13:40～16:30	英語はもう苦手じゃない! AI×新マインドセットで楽しく学び!	教養教育センター 講 師 リ オリガ
11月1日(土)	13:30～16:30	学生とまちづくり カタレでまちづくり	教養教育センター 教 授 小林 一也
11月8日(土)	13:30～16:20	色彩を感じる視覚のしくみ	教養教育センター 准教授 井戸 啓介
	16:20～	閉講式	地域連携センター 所 長 堀川 教世

《申込締切：令和7年10月15日(水)》

お申込み 富山県立大学地域連携センター TEL.0766-56-0604 / FAX.0766-56-0391 E-mail: shogaigakushu@pu-toyama.ac.jp
お問い合わせ先